

千葉市廃棄物減量等推進審議会等における主な意見・要望と対応

1 平成27年度第2回千葉市廃棄物減量等推進審議会

(1) 日時 平成27年8月28日(金) 10:00～12:11

(2) 場所 千葉市役所8階 正庁

(3) 議題

①現況と個別27事業の次期計画への継続性評価

②ごみ量の将来予測と数値目標案の設定

③その他

(4) 主な意見・要望と対応

意見・要望	対応
プラスチックの収集・資源化も業務として考えているが、膨大な経費がかかる。 【市原委員】	「資料1 答申(案)」の4ページに追記した。
プラスチックについては経費がとんとんでやっていけるのであれば取り組んでいただきたい。 【三瓶委員】	「資料1 答申(案)」の4ページに追記した。
プラスチックの再資源化は金銭上の問題ではなく、再生利用が可能なものを燃やすことは環境にどうなのかという面があり、評価の出され方が気になる。 【福永委員】	「資料1 答申(案)」の5ページに追記した。
プラスチックの再資源化についてお金がかかるから実施しないということについて疑問がある。 【伊藤(久)委員】	「資料1 答申(案)」の5ページに追記した。
志布志市が取り組んでいるように、生ごみの再資源化を行えば相当、焼却量が減る。分別を徹底し、回収場所を充実させれば相当、協力が得られる。 【福永委員】	「資料1 答申(案)」の5ページに追記した。
数値目標の達成をどう実現していくか、どれが一番近道なのかを考える必要がある。現実的な計画だが、若干意欲的でないという部分も見受けられる。 【小川委員】	「資料1 答申(案)」の7ページに追記した。
費用対効果は、金銭面だけでなく、地球環境にやさしいこと、3Rにつながってくることを評価し、原単位を減らしていくことが大事である。 【福永委員】	「資料1 答申(案)」の7ページに追記した。
コンポストを使っているが、生ごみを分別し堆肥にするのはなかなか難しい。 【伊藤(久)委員】	「資料1 答申(案)」の8ページ及び「参考資料1-2 次期計画の骨子(案)」の3ページ及びに追記した。
都市では広島市のように、生ごみの水分を減らし、燃えやすくすることができる。 【福永委員】	「資料1 答申(案)」の8ページ及び「参考資料1-2 次期計画の骨子(案)」の3ページに追記した。

資源化を進めることで、焼却灰の量も少なくでき、最終処分場の延命にも大きく貢献する。 【三瓶委員】	「資料１ 答申（案）」の９ページ及び「参考資料１－２ 次期計画の骨子（案）」の６ページに追記した。
平成３３年度からの１０年間は計画値に変動幅が少なく、これまでやっているごみ削減に対する施策の限界点という見方ができる。 【辻委員】	「資料１ 答申（案）」の９ページ及び「参考資料１－２ 次期計画の骨子（案）」の６ページに追記した。
剪定枝等の分別収集については、緑豊かなまちづくりに市民が貢献していることから無料にすべきである。 【三瓶委員】	「資料１ 答申（案）」の９ページに追記した。
廃食油はバイオディーゼルとして活用できるので、環境に良い。商店街や町内自治会の皆さんにも協力していただき、取組みを推進していただきたい。 【三瓶委員】	「資料１ 答申（案）」の１０ページ及び「参考資料１－２ 次期計画の骨子（案）」の６ページ及び 「参考資料１－２ 次期計画の骨子（案）」の１６ページ、『次期計画案（２９年３月策定）』、『新規・拡充事業の内容』、『１０ 市民・事業者との協働による再資源化の推進・支援』、『（１）協働によるごみ減量・再資源化に関する取組みの推進』、『③市民と事業者との連携による資源物の回収拠点の充実』として記載した。
清掃工場の建設費用等について市民にわかりやすく説明してほしい。 【三瓶委員】	「資料１ 答申（案）」の１１ページに追記した。
廃食油の資源化について、回収・処理・配送により、CO2 排出量が増加する懸念がある。 【岩根委員】	「資料１ 答申（案）」の１２ページ及び「参考資料１－２ 次期計画の骨子（案）」の９ページに追記した。 「参考資料１－２ 次期計画の骨子（案）」の２０ページ、『次期計画案（２９年３月策定）』、『新規・拡充事業の内容』、『１８ 収集運搬体制の合理化』、『（１）環境にやさしい収集車の導入』、『②低炭素社会に向けた収集車におけるバイオマス燃料の利用の導入』として記載した。
（計画フレーム）原単位を減らすためにどうするかということを検討すべきで、市民の理解、納得がなければ減量できない。 【福永委員】	「資料１ 答申（案）」の１４ページに追記した。

2 平成27年度第3回千葉市廃棄物減量等推進審議会 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画部会

(1) 日時 平成27年11月16日（月）15:00～16:40

(2) 場所 中央コミュニティセンター2階 26会議室

(3) 議題

①次期計画におけるビジョンと基本方針（案）について

②次期計画における個別事業の検討について

③その他

(4) 主な意見・要望と対応

意見・要望	対応
「ビジョンの新たな視点」と、「ビジョン案の①～③」が合っていない。 【倉阪部会長】 ＜ビジョンの新たな視点＞ 1 排出抑制 ・市民・事業者一人ひとりにごみ減量意識がさらに浸透しごみを出さないスタイルが確立するよう、年齢層や事業所種別に見合ったきめ細やかな普及啓発を目指す。 2 資源化・焼却ごみ削減 ・実現可能性を考慮した資源化拡大を図り、循環型社会の構築を目指す。 ・市民・地域・事業者・行政の連携を強化するとともに、地域におけるごみ減量・再資源化を推進する人材の育成を目指す。 3 安全で安定的かつ継続した処理体制の構築 ・長期的かつ総合的な視点で、焼却施設、リサイクル施設、最終処分場、汚水処理場の施設整備を目指す。 ・民間施設を活用した処理体制の構築を目指す。 ・新清掃工場において、熱回収・焼却残渣再資源化の拡大を図り、エネルギー利用の効率化や循環型社会の構築を目指す。 ・リサイクル施設の機能向上に向けた検討を行い、ごみ処理システム全体の効率化・適正化を目指す。 ・最終処分場の延命化を図るとともに、安定的かつ効率的な次期最終処分場の整備を目指す。 ・災害時に備えた強靱な処理システムの構築を目指す。 4 その他 ・次期計画に掲げる事業の費用を記載することで、費用対効果を意識づけるとともに、目標の表現方法等を見直し、市民・事業者にわかりやすい計画を目指す。	「参考資料1－2 次期計画の骨子（案）」の1～2ページを修正した。 【修正の内容】 ・計画の基本理念をわかりやすく示すため、「ビジョン案① 目指すべき方向」を基本理念とし、「ビジョン案② 果たすべき役割、③ 取り組み主体」及び「ビジョンの新たな視点」は基本方針の内容と重複するため削除した。

<ビジョン案> ①目指すべき方向 低炭素社会と連携した循環型社会の構築による持続可能な社会への貢献 ②次期計画の果たすべき役割 3 用地 2 清掃工場での安全で安定的かつ継続した処理に向けた「焼却ごみ量の削減」と「長期・総合的な処理施設の配置及び整備」 ③次期計画の取組み主体 市民・地域・事業者・行政の連携	
低炭素社会とどのように連携していくのか。一般市民は、低炭素社会と連携した循環型社会の構築と、今までの循環型低炭素社会とが、どう違うかわからないのでは。 【武井委員】	計画書の作成段階ににおいて、低炭素社会に関する解説を加え、循環型社会と低炭素社会の連携・統合について説明する。 個別事業のうち関連する事業について、わかりやすい表現を加える。 対象事業は、『18 収集運搬体制の合理化』、『(1) 環境にやさしい収集車の導入』、『②低炭素社会に向けた収集車におけるバイオマス燃料の利用の導入』及び『24 安定的・効率的な処理体制を目指した清掃工場の計画・整備』、『(1) 新清掃工場の建設』、『②環境意識の高い低炭素・循環型社会に適応した清掃工場の建設』。
生ごみの減量について、具体的にどこまで減らすのかというのがない。 【倉阪部会長】【武井委員】	「資料1 答申(案)」の6ページに追記した。
費用対効果を考えなければならないが、前面に出す必要はないのではないか。 【飯田副部会長】	「資料1 答申(案)」の7ページに追記した。
リデュース・リユースによる排出抑制を強化すべきではないか。 【倉阪部会長】	「資料1 答申(案)」の8ページ及び「参考資料1-2 次期計画の骨子(案)」の3ページに追記した。

まだごみ減量に取り組んでいない人や事業者にターゲットを絞って働きかけることが有効である。 【金子委員】	「資料１ 答申（案）」の８ページ及び「参考資料１－２ 次期計画の骨子（案）」の３ページに追記した。
「経済性・効率性」と「強靱」はトレードオフの関係にあると思うので、バランスが非常に重要になる。どこまでターゲットにするかを見据えてバランスを考えるべきだと思う。 【藤原委員】	「資料１ 答申（案）」の１１ページに追記した。
効率性・経済性について、基本方針２にある「費用対効果を踏まえた実効性のある施策」は３つの基本方針全てにかかっていると思う。３つの方針を書いた上で、共通する視点として「費用対効果を踏まえた実効性のある施策」を１つとして書く方法もあるのではないかな。 【倉阪部会長】	基本方針２・３の表現を修正し、各方針の趣旨を明確化した。 ・基本方針２は再資源化に関することで、「費用対効果を踏まえた実効性のある施策」としていたが、再生利用率を高めることを強調するため、「再生利用率を高めるための効果的な再資源化施策」に修正し、「効率性・経済性」を前面に出すことを控えたいと考えている。 ・基本方針３では施設整備や収集運搬体制に関することで「効率性・経済性」の視点に最も合致していることから、基本方針３のみに「効率性・経済性」を記載したいと考えている。